

極早生種「五百川」を田植え

8月下旬の収穫目指す

松山下伊場野地区の岩崎芳邦さんは4月26日、本JA管内のトップを切つて極早生の水稻品種「五百川」の田植えをしました。

岩崎さんは8月下旬の収穫を目指し、3月25日に播種し、準備を進めてきました。この日は地域の生産者と協力し、15^時ほどに成長した苗を、50^リに植え付けました。

岩崎さんは「苗の生育は順調だった。今年もおいしい米作りに努めたい。平年並みに10^リあたり8俵の収穫を目指す」と意気込みを語ります。

「五百川」は、福島県の生産者が生育した極早生の水稻品種で「ひとめぼれ」など一般的な品種より1カ月ほど早い8月下旬から収穫できます。管内では3戸が2.1^畝で同品種を作付けしています。



管内トップを切つて田植えをする岩崎さん(左)と地域の生産者(右)

播種方法などを確認

転作工ダマメ現地検討会



播種深度を確認する参加者と本JA職員

本JAは5月7日、担い手課が管理する圃場で転作工ダマメ現地検討会を開きました。播種前の圃場準備や播種方法などを確認。今年は、本JA管内で12^畝(前年度比11.4%)の作付けを計画しています。

今年から初めて栽培に取り組む生産者と2年目の栽培になる生産者が参加。担い手課職員が20^リの圃場に「げんき娘」を播種しながら、園芸課担当職員が播種機の調整方法などを説明しました。①種子の品種と消毒の確認②適正な播種板の選択③適正な播種深度の調整方法④適正な施肥量の確認について指導。「慣れた作業でも確認をしっかりと行うこと。基本を逸脱することのないよう作業を進めてほしい」と呼び掛けました。

大崎農業改良普及センターの担当者は「除草剤の効果を上げることや発芽むらを防ぐためにも土壌をアッパーロータリーで砕土するように」と指導しました。

灌水作業を小まめに

きゅうり部会巡回指導会

本JA半促成きゅうり部会と無加温きゅうり部会は5月13日、巡回指導会を開き、生育状況の確認と今後の管理のポイントを指導しました。

埼玉原種育成会福島事務所の松本充所長と園芸課担当職員が部会員の圃場9カ所を巡回。松本所長は、病害虫防除を徹底すること、適期に摘葉と摘心をすることなどを説明。「今年は例年以上に空気が乾燥している。灌水を小まめにし、蒸散を促して保湿に努めること。暑くて植物がしおれそうな時は遮光カーテンを閉めて直射日光を防ぐように」と指導しました。

半促成部会の佐々木豊部会長は「今年は3月16日から出荷が始まっている。例年通り高品質な商品を出荷していきたい」と話しました。



キュウリの状態を確認する松本所長(左)と佐々木部会長(右)